

2023年8月1日

立教大学国際学術研究交流制度  
2023年度「招へい研究員」報告書

1. 招へい概要

受入 教員	所属・職	社会学部・教授
	氏名	林 怡夔
受入学部・研究科・研究所		社会学部
招へい 研究員	所属・職	Associate Professor, Department of Political Sciences, Università degli Studi di Perugia 所属機関所在国：イタリア
	氏名	Marco MAZZONI
招へい期間		2023年6月14日～2023年7月1日（18日間）
研究経費		548,270円

2. 滞在中の活動

来日日および離日日を含め、滞在中の活動を記入してください。全日程（毎日）記載する必要はありません。  
講演会やセミナーなどを開催した場合はタイトル、会場、参加者数等を記載してください。

活動内容記入例) ○○について研究討議、共同研究、講演、講義、大学院生への研究指導等

年月日	活動内容
2023年6月14日	来日
2023年6月16日	社会学部林怡夔研究室にて共同研究プロジェクトについて打ち合わせ
2023年6月21日	「イタリアのメディアの現状と課題（Italian Media System）」セミナーを開催 会場：X306教室 時間：13:25~14:45 参加者数：20名
2023年6月28日	「政治腐敗とメディア(Corruption and Mass Media)」セミナーを開催 会場：X306教室 時間：13:25~14:45 参加者数：18名
2023年7月1日	離日

### 3. 研究・交流状況および成果

上記に記載した活動について、具体的な研究・交流の内容および成果を、本学の学術研究、教育活動、国際交流の進展へ与える効果を含めて、記載してください。講演会やセミナーなどの参加者層（学生、大学院生、一般、教職員等）、会場の様子なども記載してください。

Marco MAZZONI 先生は立教大学に滞在中、以下の3つの活動を行った。

#### ① JRP 共同研究プロジェクトについての打ち合わせ

「Journalistic Role Performance 国際ジャーナリズム調査プロジェクト(37カ国)」の一環として、Mazzoni 先生と社会学部の林怡蒨が 2019 年から、それぞれイタリアと日本を代表して調査チームを結成し、アンケート調査及びメディア報道内容のコーディング作業を行ってきた。イタリアと日本におけるジャーナリストの規範と実践のギャップを考察する比較研究を行うため、今回の打ち合わせでは、細かい分析項目を中心に踏み込んだ議論をし、最後に研究論文の構成と分担について確認を行った。

ジャーナリズム研究の分野では、ヨーロッパの学者とともに国際比較研究を行うものは今まで比較的稀で、Mazzoni 先生との合同研究によって新たな研究枠組みの開拓に繋がると考えられ、今後も継続して様々な国際比較研究の可能性を模索して取り組んでいきたいと考える。

#### ② 「イタリアのメディアの現状と課題 (Italian Media System)」セミナー

2023 年 6 月 21 日に 1 回目のセミナーを開催した。開催言語は英語で、Q&A は日本語と英語を使用した。Mazzoni 先生はイタリアの政治とメディアの専門家で、今回のセミナーではまず様々なデータを用いながらイタリア社会およびテレビと新聞産業の構造を紹介した。イタリアのメディア環境には、リベラルと保守的立場がそれぞれあり、権力側との距離によって記事の内容や見出しの付け方に大きく異なる点があることも紹介した。参加した学部生と大学院生から様々な質問や感想がでた。とりわけベルルスコーニ元首相の死去を報じた新聞各社の見出しの分析に触発され、参加者から安倍元総理の暗殺をめぐる記事分析との比較を提案する意見が出た。

#### ③ 「政治腐敗とメディア(Corruption and Mass Media)」セミナー

2023 年 6 月 27 日に 2 回目のセミナーを開催し、前回同様、英語によるレクチャーと日本語・英語を交えての Q&A で進行した。ヨーロッパ各紙が政治の腐敗や汚職事件をどう取り上げてきたのか、という問いを中心に様々な調査結果とデータが紹介された。2 回目のセミナーの参加者は前回と同じメンバーで、セミナーの後半では学生が事前に用意した質問を中心に Mazzoni 先生が答える形で展開された。10 以上の質問のなかに、とりわけイタリアの政治報道を左右する要素、イタリアにおける公共放送の歴史、報道の政治的中立と客観性問題について、Mazzoni 先生から丁寧な説明がなされ、さらに学生の多くとは意見交換を行った。